



3月号 第89号

発行日 : 2024年2月20日

発行 : 虹技株式会社

安全環境管理部 環境管理G  
姫路市大津区勘兵衛町4丁目1  
☎ 079-236-3257

**何か妙な** 気候が続きますね。朝は霧下なのにお昼間は春のポカポカ陽気だったり、逆にお昼に向かって寒気がやって来て凍えたり……。それで県内のスキー場には雪がないかと思えば、大雪が降ってその後に雨……。と、気まぐれ気候に振り回され、ゲレンデも大変でしょうね。この気温の乱高下についていくのが大変です。



さて、こちらは森の妖精、寒くてモフモフに膨らんだ愛らしいエナガさん。女子に人気は、全身真っ白のシマエナガですが、この子は目の辺りに黒いラインがあります。なぜ真っ白い方に「シマ」と付くのかと思ったら、島=北海道のことなんだって。なるほど、シマエナガは北海道に住むエナガなのでした。



先月号で紹介した「招かれた天敵」の表紙にもなった益虫と呼ばれるナミテントウです。農業被害をもたらすあらゆるアブラムシを捕食します。昆虫の世界では、この何でも食べるってのはジェネラリストと呼ばれ、単一のものしか食べないスペシャリストと区別されます。黒・赤・オレンジの3色の組み合わせに、この厳かなつや感は、まるで輪島塗のようでこちらの方がスペシャリストという言葉のイメージに合いそうですけどね。

そうそう、タイトルバックの紹介を忘れていました。1月末の、雪に覆われたフッキソウです。常緑の低木で日陰を好みます。手入れがいらす平たく育つので、園芸界ではグラウンドカバーとして好まれています。濃い常緑は縁起が良いとされ、福貴草と名付けられました。草じゃなくて木なんですけどね。



春になると一番に咲く花のひとつとして有名なのがこのアセビですが、少し気が早いようです。ポカポカ陽気にちょっとフライング気味でしょうか。毒性があるため、シカなど草食動物が多い地域ではアセビだけを避けて食べつくすので、アセビだけが繁殖して目立つそうです。



この眼光鋭い鳥はシロハラです。暑い時期は涼しい国で繁殖し、冬に日本へやってきます。落ち葉をせっせとひっくり返し、隠れた虫を探して食べるので「木の葉返し」という別名もあるそうです。

# 環境爺(びびい)のつぶやきコラム



ぶつぶつ

「年寄りの冷や水」という言葉があるじゃろう。年寄りが強がって若いものまねをしてはろくなことないという意味じゃ。わしゃこの格言が嫌いではない。その通りじゃ。年を重ねるということは、若いものようにはできん身体になっておるということじゃ。年を取れば皆も実感できるじゃろう。そこで、なんと情けない身体になり果ててしまうたと嘆くことが多いじゃろ。

じゃが、わしゃその格言をしっかりと受け止め、それでも腹を下すことを「覚悟のうえで冷や水をがぶ飲みする」のが好きじゃ。「愚の骨頂か?!」と思わんでくれ。これがスリリングなのじゃ。無論、周りに迷惑をかけちゃいかんが、自己責任、いや爺責任であえて挑む。これがわしの信条じゃ。皆も年を取っても枯れたり腐ったりするでないぞ。

## 世界遺産 姫路城マラソン2024

というわけで、先日、姫路城マラソンのファンラン5キロに参加した。これまで、フルを幾度も走ったが、練習不足なので今回は距離を抑えたわけじゃ。この距離をゆっくりと走るのも悪くない。おかげで、間寛平ちゃんや斎藤兵庫知事と並走するという貴重な体験もできた。あたり前に、翌日からの筋肉痛、関節痛、よたよた歩きには少々にこすったが・・・

又、いつかフルに再チャレンジしたいものじゃ。

さて、この時期に毎年実施される環境カウンセラー研修を受講したので、気づいたことを話してみよう。お忘れかもしれんが、わしゃ環境省登録の環境カウンセラー(市民部門)じゃ。環境カウンセラーは現在全国で3,026人、兵庫県では173人登録されている。姫路市ではわしを含めてたったの9人と、とってもレアでマイナーな資格じゃ。

その環境カウンセラーにはいろいろとミッション

があつての。そのひとつに研修の受講もある。コロナ以降は、オンライン研修となっており、自宅で受講するのじゃが、今回はひとこま1時間程度のものが8講座用意されておった。どれどれと視聴・受講してみた。

はっきり言って、ありきたりな環境情報ばかりに少々期待外れじゃった。どの講座も丁寧に作り込まれており、講師の方々の語り口調も聞き易く、練習をずいぶんされたであろうと、その努力には敬意を表し、素晴らしいと思う。しかしじゃ、これは環境カウンセラーのレベルアップを図るための講座じゃろ? 環境カウンセラーは「環境保全に関する豊富な経験や専門的知識を有する人材」とされ、その為の研修であつて一般市民への講座じゃないはずじゃ。事務局には、もう少し手ごたえのある研修をお願いしたいのう。



とは言つたが、ピリッとする情報がなかったわけではない。その一つが再生可能エネルギー(再エネ)が、なぜ日本では普及しないのかについてじゃ。この解説には目からウロコじゃった。風力、太陽光に代表される再エネは、発電が自然任せでコントロールが難しい。発電量がギザギザの凸凹じゃ。なので、日本においては電力の安定的供給のため、火力発電がその凸凹を埋めるために稼働しておるが、気まぐれな再エネ発電にピタリと追従することはできないので、多めに発電し、その多めの電力がすべてロス。つまり捨てるを得ないのじゃから、ものすごい無駄。

じゃ、どうして欧州では再エネが普及しとるかというじゃな。欧州の送電線網は50か国近くにもまたがり、その電線網の大きさは日本国土の10倍以上にもなる広さなんじゃ。そうなると気候の変動による再エネ電力の凸凹が平準化される為、そんなに大き



な変動にはならない。つまり、バックアップの火力発電によって捨てる電力が少なくて済むんじゃ。アメリカやロシア、中国なんかの国土の広い国でもそうじゃな。これらの国では再エネは比較的安定した電力源となるのじゃ。島国で国土が小さく、寒波が来れば一斉に冷え込み、梅雨の季節には全国で雨が降り続くようなこの日本では、再エネをコントロールすることなど土台無理なハナシなんじゃ。再エネを使いこなすには、広大な国土もしくはそういうスケールの電線網がないとダメという訳じゃ。



さらに、日本の国土は7割が山で森林じゃ。都会は平地といえど再エネ発電所など作るスペースがない。なので、山間部にむりくり再エネ発電所を作ってもその電力は都会で消費され、地方には雇用もお金も生み出さん。このような再エネ発電に魅力を感じるわけもなく、自然を破壊し、また災害要因にもなり得る再エネを積極的に誘致する地方など稀じゃ。

さらに欧米は原発がブンブン稼働しておる。地震が少なく、広大な電線網に存在する原発はベース電力として再エネを力強くバックアップしておるのじゃ。前にも言うたが、日本での原発はリスクが高すぎる。世界一の地震多発地域じゃぞ。どんなに強固に作っても地面の岩盤ごと揺さぶられちゃ、ひとたまりもない。じゃから、原発の新設はもちろん、削減縮小しか考えられんじゃろう。

とまあ、日本で再エネを普及させるには壁がありすぎてそれを乗り越えられんのが現実じゃ。しかもじゃ、再エネはソーラーも風力も電力シェアが高まれば高まるほどコストが跳ね上がり、電力単価がどんどん上がっていくしかない。再エネに関してはシェア拡大にコスト削減効果はない。

じゃから日本がエネルギー消費によるCO<sub>2</sub>削減を図るとしたら、需要側が発電量に合わせて電力使用を

調整する(これをデマンドレスポンスという)ことや、需要側に点在する蓄電池(EVなんかも含めて)を電源として市場流通させる(これをバーチャルパワープラントという)こと等を進化させるしか道はないのじゃないか。これらの対策はAIを駆使した高度なコントロール技術が必要となるが、こういう技術は日本の得意分野じゃ。再エネや原発の開発に投入しておる人材やエネルギー、コストをこちらに転換すべきとわしゃ思うのお。

ところで、TBSのドラマ「不適切にもほどがある！」が人気のようにじゃな。宮藤官九郎のコメディじゃ。昭和のおやじが令和にタイムスリップして痛快なドタバタ劇を演じるというストーリー。久しぶりに腹を抱えて笑わせてもらっておる。ドラマのクライマックスが、コミカルなミュージカル仕立てになっておるのも風変わり毎週楽しみじゃ。わしらには懐かしく、以前なら普通だったことが令和の現代では完全にアウトになったことが、こんなにも多いんだと今さらながら気付かされた。昭和からやって来たおやじが、皆の持つスマホを見て「なんだあれは！」と何度も叫ぶシーン。そうじゃろうなあ、昭和の時代には想像もできないアイテムじゃ。



なにより、阿部サダヲ演ずる昭和のおやじぶりが見事なこと。わしが若い頃のオトナってこんな感じじゃった。コンプライアンスやハラスメントでがんじがらめの今の時代に、疑問を投げかけ、グイグイ切り込んでいく展開は小気味よい。そして、セクハラガイドラインを「我が娘にはしたくないこと」としたあたりは、なかなか含蓄があってさすがと言わざるを得ん。すべての女性を我が娘と思えば、ハラスメントも分かりやすく、的を射ている。さて、これから、どんな展開になるのか、クドカンはどう楽しませてくれるのかワクワクじゃ。

ぶつぶつ



## 虹の森なう

ゆめさきの森公園事務所から  
「シイタケが出ています！」

との連絡を受け、今回はまず我らのシイタケ培地に向かいました。通常はこんな真冬に生えたりしないのに、やっぱり暖冬のポカポカ陽気でシイタケもおかしくなったのかもしれませんが。のぞいてみると、なるほどシイタケが一斉に生えている。ただ、出てきたものの、まだ冬だと気付いたのかどれもあまり大きくありません。それより、ホダ木から外れて転がっているシイタケが結構あったので、もしかしたら、シカが入って荒らした可能性もあります。ちょっと対策が必要かもしれません。



さて、虹の森整備ですが、集まったメンバーが少なく、大掛かりな作業はやめて、遊歩道の階段補修をメインに行いました。尾根筋に以前作った遊歩道も完成してから数年経ち、初代ツリーデッキを解体撤去してからは、あまり手入れをしていませんでした。階段もそれなりに傷んじゃって、ステップも、またそれを支える杭もボロボロになっていたの、下から順にすべて作り直しです。



その材料となる木を、道の幅に寸法を合わせて整え、杭となる木の先っちょをとがらせるステップ材制作班と、朽ちた階段を撤去し、坂道を階段状に切り込み、杭を打ちつける土木工事班の二手に分かれてチームワーク良く整備を進めます。

どちらの班も、作業に派手さはないけれど地味に体力が消耗するので、約20mほど整備したところで、ひとまず終了。これより先は急登が続くので、作業も大変そうだし、そもそも、この急登路を進む人はいらぬのか？との議論も出たり、それよりかは、新デッキへのトラバース歩道を整備してはどうかということで、検討することに相成りました。尾根筋から新デッキへの道が出来れば、ちょうど虹の森を一周できる周回路となるので、グッドかもです。



## 第95回 森林整備の案内と参加者募集

次は、シイタケの菌打ちを行う予定です。50本ほどホダ木を用意しますので、みんなでシイタケ菌を打ちまくりましょう。今年打ち込んだホダ木は板伏せで数ヶ月落ち着かせた後、本伏せすれば一年ほどでシイタケがニョキニョキ出てきます。それと本伏せでホダ木を立てかけるウマがずいぶん傷んでいるのでこれも順次作り替えの必要があります。いい汗かいた後、温泉でほっこりしませんか。初めての方大歓迎、気軽にお声がけくださいね。

**日時：** 3月9日(土) 10:00~15:00 (9:30公園駐車場集合)

**場所：** 県立ゆめさきの森公園(虹の森)

**申し込み：** 参加希望者は、環境管理G 的場まで、またはお近くにいるメンバーまで連絡ください。

的場ケータイ：090-5979-8385

メンバーの方はショートメール等で参加の可否を連絡いただければありがたいです。